

歴史から学ぶ「福山」

郷土の

きょうどのいじん

— 第4回 —

偉人たち

皆さんが暮らす福山市には、かつて偉業を成し遂げた多くの先人がいます。しかし、今ではその名を聞くことが少なくなってしまった人たちもいます。そんな忘れられた郷土の偉人たちを紹介します。



執筆 エフエムふくやま 専務取締役 局長 田中 宏行 (福山市立南小学校・伊予中学校出身)

赤穂浪士を非難 感情に流されることを最も嫌った男

皆さん、江戸時代中期、全国にその名をどろかせた福山出身の朱子学者がいたことをご存知でしょうか。その人の名は佐藤直方といい、1650年(慶安3年)、備後福山藩の下級武士の子として福山で生まれました。そして、10代後半からは、とても有名な朱子学者・山崎闇斎の弟子である福山藩士に学びました。眼光鋭く、いかつい顔をした、身長180cm余りの大男の直方は、1670年(寛文10年)21歳の時に、本格的に学ぶため、京都にいる闇斎に弟子入りを願い出しましたが、勉強不足を理由にはつきり断られてしまいました。希望を打ち砕かれ福山春日に戻った直方は、それでも決してあきらめず猛勉強して、翌年再び京都に行き、今度は晴れて念願の闇斎の弟子となりました。当時、闇斎の学派は「崎門学派」と呼ばれ、6千人もの多くの弟子がおり、殿様と家臣の厳格な上下関係や礼節を重んじる思想は、幕末

「崎門の三傑」と称された朱子学者

佐藤直方

さとう なおかた (1650-1719)

特に注目する点は、1703年(元禄15年)の赤穂事件(赤穂浪士による仇討ち)に対し、世間は「義拳(正義の行い)」と絶賛しましたが、直方は、赤穂浪士は決して忠義を貫いた正義の人たちではなく国の法律を破った罪人であると非難したことです。このことは、直方が秩序を重んじる人間であるとともに、感情に流されず、しっかりと自分の考えの下に、物事のよしあしを論理的に判断する人物であったことを強くうかがわせます。1719年(享保4年)、直方は講義中に倒れて亡くなりました。お墓に刻まれた戒名は、「一貫了道居士」。胎目もふらず学問一筋の道を歩み、生涯を閉じた直方にとてもふさわしいものです。

※朱子学 中印・南宋の朱熹(しゅうぎ)による新しい儒学「儒学」は孔子の教えで、江戸幕府が奨励した儒学主流の学問 ※神道 古くから存在する日本固有の宗教



佐藤直方の墓 写真提供: 環境光寺(東京都港区東麻布1-1-6)